



岡 津



学校だより 3月号
令和4年2月28日
横浜市立岡津小学校
校長 宮路 ますみ
TEL 811-4104
FAX 812-4586

令和3年度のキーワード
「つなぐ 自らの成長を自覚し、適切に行動できる岡津っ子」

<http://www.edu.city.yokohama.jp/sch/es/okazu/>



自分の感性を大切に

校長 宮路 ますみ

子ども達が登校してくる時間になると、陽の光が柔らかく降り注ぐようになってきました。少しずつ春が近づいてきていることを感じます。

いよいよ3月がやってきます。春は、出会いと別れの季節です。100周年を支えてくれた6年生は、3月18日に卒業します。コロナ禍の中、知恵を出し合って最高学年としての一年間を駆け抜けてくれた6年生には、感謝の言葉しかありません。卒業してしまうのは本当に寂しいことですが、95名の輝かしい未来を信じて、心を込めて送り出したいと思っています。

先日、世界で初めて小惑星内部の岩石の採取に成功した日本の探査機「はやぶさ2」を開発したJAXA(宇宙航空研究開発機構)でプロジェクトリーダーを務める津田 雄一さんの講演を聞く機会がありました。日本を代表する宇宙科学者の一人ですから気難しそうだなという印象を抱いていたのですが、実際にお話をされていた様子は気さくで明るい方でした。

津田さんは、相模原市出身で現在も相模原市に住んでおられ、神奈川県と縁の深い方です。なぜ宇宙科学を志したのかという問いには、

「小学校1・2年の頃、父の仕事の関係でアメリカに住んだ時期がありました。父は、休みのたびにいろいろなところに連れて行ってくれました。その中に、ケネディ宇宙センターがありました。実際にスペースシャトルの発射台を見学し、その大きさに圧倒されたことが印象に残っていました。帰国後、小学校4年生の時に打ち上げられたハレー彗星の探査機が、市内の研究施設で作られたことを知り、それが宇宙開発を志すきっかけになりました。」

と答えています。最初はパイロットを目指していたそうですが、元々手先が器用で、ものづくりが好きなので、開発の道を選んだのだとおっしゃっていました。このエピソードは、子どもの頃の体験や感性がいかに重要なかを物語っていると思います。自分の好きだと思ふこと、興味のあることを職業に結び付けられるのは、容易なことではありません。しかし、「好きだ」とか「面白いなあ」と思ふ好奇心は、学習意欲を高める最も大きな原動力になることは間違いありません。しかも、それはバーチャルな世界での経験ではなく、実体験だからこそです。どんなにYouTubeやゲームで疑似体験をしたとしても、実体験の衝撃に勝るものはありません。『百聞は一見に如かず』とはよく言ったものです。自分はどんなものに興味があり、何を面白いと思うのか、それは個々の感性の問題であり、自分自身にしかわからないものです。だからこそ、日頃から自分自身の心と向き合い、対話していくことがとても大切です。自分自身の感性を信じて、それを伸ばせるよう努力をひたむきに続けることのできる人が夢を叶える人なのだと思います。誰にでもある自分だけの「好き」の気持ち、ぜひ大切にしてほしいものです。

令和3年度もコロナ禍で思うように学校経営がいかないことが多くありましたが、保護者の皆様・地域の皆様のご理解のもと、何とか無事に学年末を迎えることができました。心より感謝申し上げます。令和4年度も引き続き、よろしくお願いいたします。